

第7章 計画の推進

1. 計画推進への取り組み

観光は、裾野の広い産業であり、関連する産業や個人消費などを通じ新たな産業や雇用の創出を促し、地域経済の活性化をもたらします。そのためには、計画を「誰が」、「いつ」、「どのように」担うのかという役割分担を明確にする必要があります。その中で組織、人がそれぞれの役割を果たすことによって初めて、本市の観光振興が実現できます。

そこで、本計画に基づく取り組みを実行していくための実施体制を明確にします。

観光振興推進組織の設置

観光振興推進組織は、官民一体となって、観光振興施策・事業の総合調整及び点検、評価を行い、次のような取り組みを行います。

■ 観光プロデューサーの育成

観光まちづくりは、行政の力だけで果たせるものではなく、地域が一体となり、また産学官民の協働が必要不可欠です。観光振興・観光まちづくりを担っていく人材の存在が極めて重要となります。こうした課題に対して、自身の知識と経験を活かし、何より熱意を持って地域のために活動する「プロデューサー」的人材の育成に取り組み、観光振興を推進していきます。

■ 資金調達支援体制づくり

観光人材育成及びプロジェクトの実施にあたっては、市だけではなく国、県からの補助金や助成金などの獲得を目指すとともに、ビジネス的視点を取り入れ、自律的に取り組んでいける体制づくりを進めます。

■ マーケティング視点のモニタリング

観光振興を図るためには単なるセールスの域から、観光者が本市に求める魅力やニーズ（各属性別）をきめ細かく分析し、観光客のニーズに応えることが重要です。そこで、定期的に観光客のニーズや声をキャッチし、観光振興に活かせる体制をつくります。

観光プロジェクト実施組織の設置

本観光振興計画を策定するために策定委員会が発足しましたが、それと同時に地元の若手を中心に「ワーキングチーム」ができ、観光振興の具体策の実践に向けた取り組みを模索してきました。その活動計画を計画期間内で実施するために「観光プロジェクトチーム」を組織し、観光振興に取り組みます。

2. 推進体制のイメージと役割

観光振興の担い手としては、市民や観光事業者、観光関連団体（観光協会、経済団体など）、行政、市外の協力者など、幅広い団体や個人が関わっていくことになります。計画の推進母体として柳川観光振興推進組織（仮称）を設置し、効率的な運営と各主体の役割分担を調整するコーディネート機能の役割を担い、また、計画の検証を行います。柳川観光振興推進機構（仮称）の中には評価委員会を設け、年度別・計画期間別に各プロジェクトの評価を行います。

【計画の推進体制】

